

Effect of Sanjiao Acupuncture treatment for patients with dementia or lifestyle related disease -A report by Gold-QPD acupuncturists-

認知症に対する三焦鍼法鍼治療の効果 - Gold-QPD 鍼灸師による報告 -

Masamichi Nakamura (中村真通)¹, Akira Hyodo (兵頭明)², Han Jingxian (韓景猷)³, Oichi Kawanami (川並汪一)⁴

¹ *Tokyo Therapeutic Institute, Kuretake College (Japan)*

² *Traditional Chinese Medicine Clinical Laboratory, Goto College (Japan)*

³ *First Teaching Hospital, Tianjin University of Traditional Chinese Medicine (China)*

⁴ *Gerontology Research Association Japan (Japan)*

Keywords:

Dementia(認知症), Sanjiao Acupuncture (三焦鍼法), MMSE(Mini-Mental State Examination), N-ADL(N式老年者用日常生活動作能力評価尺度), Lifestyle related disease (生活習慣病), AD (アルツハイマー型認知症)、VaD (血管性認知症)

目的 認知症に対する鍼治療の成果は報告はかなりあるが日本での臨床研究は極めて少ない。認知症患者と非認知症（生活習慣病）の高齢者に対し、標準化された三焦鍼法の鍼治療を行い、治療前後を比較検討した。

方法 鍼治療の同意を得た合計 56 名（アルツハイマー型認知症 (AD) 18 名、血管性認知症 (VaD) 12 名、非認知症高齢者 (LS-D) 26 名) に対し、三焦鍼法治療を週 1 回 3 ヶ月合計 12 回行った。施術は技術の標準化トレーニングに合格した鍼灸師 22 名によって実施された。評価は Mini-Mental State Examination (MMSE) と N 式老年者用日常生活動作能力評価尺度 (N-ADL) で行い、鍼治療前と 12 回終了後の値を統計的に検討した。また日常生活の会話記録からテキスト分析を行い MMSE と N-ADL に表現されない生活の質的向上効果を検討した。

結果 MMSE 値は被施術者全体の平均が 21.4 ± 7.3 から 22.7 ± 7.0 となり、N-ADL 値は平均 34.7 ± 13.1 から 34.9 ± 13.0 に上昇し施術前と比較して、共に有意差を認めた ($p < .05$)。VaD 群と LS-D 群では MMSE 値が施術前後で有意に上昇したが、重症度の多彩な AD 群では有意差が見られなかった。被施術者全体では、要介護 2 以下群では有意 ($p < .05$) に上昇したが、要介護 3 以上の重度群では有意差を認めなかった。興味深いことに、いずれの群でも被施術者には、日常生活における身体面と精神面で著しい向上を認めた。

考察/結語 三焦鍼法は、VaD 群と LS-D 群で認知能の活性効果が明らかである。また AD 群を含め要介護レベルの軽度群で MMSE 低下を防止し、加えて身体面・精神面の向上により家族を含む QOL の向上に役立つ。